

令和2年度 第1回亀岡市地域福祉計画策定委員会 議事録要旨

日時	令和2年8月31日（月） 14:00~16:10
場所	亀岡市役所別館3階会議室
出席者	岡崎委員（委員長） 三宅委員 青木委員 山本（隆志）委員（副委員長） 松井委員 伊豆田委員 酒井委員 八木委員 大石委員 出藏委員 竹岡委員 山内委員 細川委員 西村委員 山本（明）委員 健康福祉部長 河原 事務局：佐々木 田端 根木
次第	1. 開会 2. 委嘱状の交付 3. あいさつ 4. 正副委員長選出 5. 自己紹介 6. 会議内容 （1）「第3期 亀岡市地域福祉計画」の策定について （2）地域福祉について （3）グループワーク （4）各グループ発表 （5）まとめ 7. その他 8. 開会

<次第>

1. 開 会

事務局から開会のあいさつ

2. 委嘱状交付

市長から各委員に委嘱状の交付

3. あいさつ

市長からあいさつ

4. 正副委員長選出

委員長に岡崎祐司委員、副委員長に山本隆志委員を選出

5. 自己紹介

6. 会議内容

(1) 「第3期 亀岡市地域福祉計画」の策定について

事務局から説明

(2) 地域福祉について

岡崎委員長から説明

(3) グループワーク

4グループに分かれ、地域福祉に関する課題について討論する。

(4) 各グループ発表

◆A グループ（三宅委員・山本（隆志）委員・酒井委員・細川委員）

三宅委員より発表

- ・新型コロナウイルス感染症対策をどうすれば良いのか判断に迷っている。
- ・障害者手帳保持者で集まる組織をつくり、同じ境遇の方がやすらげる居場所づくりに力を入れているが、組織を維持するための組織率が悪くなっている。
- ・家庭の課題などがあり不登校になるケースなど課題が複合化していることが多い。
- ・外国人労働者が増えている地域では、今後、災害時の対応や地域で孤立させないことを考えると、それぞれの状況や立場に立った対応が必要になっている。普段からのつながりを増やして、地域で対応できる力をつけていくことが大事であると考えている。

◆B グループ（青木委員・松井委員・出蔵委員・西村委員）

青木委員より発表

- ・昔からの地域の人と新たに引っ越してこられる人との生活のルールの共有が難しくなっている。特に、すでに出来上がっているコミュニティの中に入っていくことが難しく、新旧相互の理解が進まない現状があり、関わり方が課題になっている。
- ・障がい者団体等の様々な事業を周知しても参加してもらえず、活動が広がっていかない。
- ・子育てでは、地域で様々なトラブルがあり、話や悩みを聞いてもらえる場所があるだけでもありがたいと思っている。SNS等のインターネットを利用したつながりも増えているが、深い話がなかなかできず、やはり実際に会って話すことが大切だと感じている。
- ・個人情報保護の観点から、あまり踏み込んだ情報が聞き出せない。今後、災害時や地域で助け合わないといけない時の障害とならないか心配している。

◆C グループ（竹岡委員・伊豆田委員・大石委員）

竹岡委員より発表

- ・地域でのごみの分別ができていない。
- ・ごみの収集場に残されたごみが放置されてあったり、剪定された庭木の枝が放置されていたりという問題もある。しかし、それらを発見しても、どこまで解決すれば良いのかが明確でないことや、地域の中での役割や肩書がないことで取り組めないといったもどかしい状況が続いている。
- ・ご近所同士でチームを作って解決できるようにするためには、元気な高齢者を巻き込んで取り組んでいくことが必要である。
- ・ある団体では、交通支援の活動に取り組んでおり、高齢のために買い物に出られない方や、買い物に行きたくても手段がない方を対象に買い物支援をしている。課題としては、利用者数が少ないものの小規模だからこそ上手くマッチングしているが、今後、利用者が増えると対応できない可能性もある。そのため会員数を増やしたいが、役員をやりたくないという理由から会員にならない方が多くなっている。
- ・全体を通して、高齢者という枠が65歳以上となっているが、高齢化が進む中、今後は高齢者の中でも段階を区切り、それぞれに対応した施策に取り組んでいくことが必要なのではないか。
- ・以前に比べて、自分のことを優先される時代の中で、少しでも考えが変化するような取組が必要であると思う。

◆D グループ（山本（明）委員・山内委員・八木委員）

山本（明）委員より発表

- ・ケアマネジャーとして高齢者に接しているが、身寄りのない高齢者が多くなってきていると感じる。そのため、成年後見制度を利用しながら、横のつながりを強める必要があるが、高齢者に関係するサービスの提供については、福祉人材が不足している現状がある。
- ・自治会が強く、様々な行事を実施している地域だが、なり手が少なくなっている。
- ・災害時の対応については、関係者と共有したい情報があった場合でも、個人情報保護の観点から近隣住民には言わないで欲しいと言われることがある。特に一人暮らし高齢者など地域で孤立しやすい人に対して、日頃からどのように避難を促していくのかを話し合い、詰めておかないといけないが、なかなか取り組めていない。
- ・ひきこもりの問題については、民生委員の方と進めているが、全体を把握できていないことも多く、結果までを把握できていない。
- ・若い子育て世代の方が、地域の運動会になかなか参加しづらいという状況がある。
- ・地域の中でもつながりが弱いところもあり、行事への参加が減っており、役員のなり手も少なくなっている状況である。そのため、自治会の取組を進めているが、人材不足により、活動を広げることができない現状である。地域福祉を進める上で、しっかりとした自治会組織ができないと今後推進する力が低くなるのではないかと。

(5) まとめ

岡崎委員長よりまとめ

6. その他

- ・亀岡市地域福祉計画策定委員会作業部会の設置について
- ・事務局より日程説明

第2回策定委員会 令和2年11月20日 金曜日 午後2時～

7. 閉会

山本副委員長よりあいさつ